

「あなたに与えられた試練」

ごきげんよう、  
高橋です。

私の実家は岩手県です。  
東日本大震災から6年以上が経ちますが、  
いまだに2500名を超える人が行方不明です。

私の友人の中にも、犠牲者や被災者がいます。  
震災を境に連絡が途絶えてしまった友人もいます。

また、同級生の中には、  
被災地で医師としてがんばっている友人や、  
小学校の先生をしている友人、  
ナースをしている友人もいます。

「震災のあの日、医師として釜石市にいたということ、  
あの体験をしたということは、  
生涯ここで医師として生きなさいと神様が言っているのだと思った。  
あの日からこれからも、一生、  
ここのみんな（患者さん）を診ていくことが自分に課せられた使命だと思う」

これは、被災地で医師をしている、  
中学の同級生からラインで送られてきた言葉です。

先日から、あなたと、  
アウトプットの話をしていましたが、

それに関連して、今日はあなたに、  
被災地（岩手県釜石市）の医療現場で働く  
私の同級生の話をシェアしたいと思います。

東日本大震災の直接の死者数は15894人ですが、  
実は、6年以上が経った今も、「震災関連死」が増え続けています。

震災の時のケガなどが原因で死に至るほか、  
実は、精神的な問題の自殺も多いそうです。

医療現場で働く友人たちは、  
必死の思いで救った命なのに、  
救えなかった命もたくさんあったのに、

それなのに、せつかく生き延びた大切な命が、  
自らの手で絶たれてしまうのが、  
本当にやるせなく、どうしようもない無力感を感じる。

と、とても悔しそうに話していました。

被災した直後は、生きるためには物資が必要だった。

水、毛布、食べ物、衣類、トイレ・・・そして、家。  
生きるためには、「物」と「お金」が必要だった。  
だから、多くの人に、支援物資と、  
たくさんのお金を支援してもらった。

しかし、  
物とお金だけでは「生き続けること」が、  
できないのだそうです。

喪失感、絶望感、無力感、  
これらを乗り越えて、  
「もう一度、がんばろう」「もう一度、生きよう」「明日も、生きよう」  
そう思うことができなければ、

小さな、かすかな希望を持つことができなければ、  
せつかく助かった命も、自分で絶ってしまうことになるのです。

その「小さな希望」を与えてくれるのは、  
何なのか？というと、  
結局、人の言葉なのだそうです。

ですから、私の友人も、毎月、被災地で、  
お笑い芸人や、芸能人、本の著者や著名人など、  
いろいろな人を呼ぶイベントを積極的に開催しています。

お金や、物よりも、  
人の言葉が、誰かに生きる希望を与え、  
誰かの命を救うことがあるのです。

あなたは、この話を聞いて、どう思いますか？

あなたは、今、いろいろなものを持っていると思います。

お金も、家も、物も、持っていると思います。

それでは、あなたが持っているものの中で、  
一番価値のあるものって、何でしょうか。

預金通帳のお金でしょうか。  
家でしょうか。トラックでしょうか。

あなた自身が持っているもので、一番価値のあるものは、  
やはり、あなたの経験ではないでしょうか。

あなたの経験は、  
あなたしか持っていないものです。

あなたがその経験をしたのは、  
あなたがした、その経験を、  
次世代に伝えるために、「経験させられた」とは、  
考えられないでしょうか。

私は、足の病気で生まれてきましたが、  
今は、私が小さい頃に通っていた肢体不自由児施設に  
パソコンを贈る活動をしています。

今、施設に通う肢体不自由の子供たちに、

歩けなくても、自分の将来を  
自分の力で切り開いてほしいと思って、  
している活動です。

私も、この学校に通っていて、  
みんなと同じように昔は歩けなかったけど、  
今はパソコンを武器に、ビジネスで成功しているよ、  
というメッセージ。

これは、私にしか届けられないメッセージです。

小さい頃は、  
この足の事でいやな思いもしたけれど、  
いわば、私に課せられた課題があり、

それを乗り越えたら、アウトプットして誰かを救いなさい。  
誰かを勇気付けてあげなさい。と、

そういう使命があったから、  
経験させられた事なのだと確信しています。

あなたも、今までに、  
いろんな経験をしてきたと思います。

辛かった経験こそ、  
そこには、あなたに課せられた「使命」が、  
あるのではないのでしょうか。

そこで、私があなたに提案したいことがあります。

「講演講師になって下さい」

講演講師になって、  
あなたが、これまでに経験してきたことを、  
話して下さい。

ひょっとしたら自分では、  
たいした経験じゃないと思っているかもしれません。

しかし、あなたのその経験を聞くことで、  
励まされる人、勇気をもらえる人が、  
全国に、必ずいるはずですよ。

あなたが持っているものの中で、  
最も価値あるものは、あなたの経験であり、

その、最も価値あるものを手放して、  
みんなのために世の中に提供してあげることこそが、

あなたが、次のステージに上がるために、  
今、すべきことではないでしょうか。

あなたがした経験が、  
辛い経験であればあるほど、

後に、アウトプットするために、  
あなたに与えられた試練だったのではないのでしょうか。

抱え込んでいた価値を、  
講演講師になって、世の中に提供する、  
ということを、ぜひ、真剣に考えてみて下さい。

高橋久美子

※メールの感想を送って下さい。

[ [info@unsoukeiei.com](mailto:info@unsoukeiei.com) ]